

令和8年度 日本大学大学院経済学研究科  
博士前期課程 一般（第2期）  
【科目名】外国語：英語

2020～24年にかけて一連の不利なショックに翻弄された後、世界経済は本年、新たな重大な逆風に直面している。すなわち、貿易障壁の強化と政策不確実性の高まりにより、1月時点の見通しと比べて経済見通しが著しく悪化しているのである。とりわけ、世界全体の生産は、世界的な景気後退期を除けば、2008年以来最も低い成長率にとどまると予想されている。関税の急激な引き上げとそれに伴う不確実性の拡大は、世界の大半の国・地域において、広範な成長減速と見通しの悪化を引き起こしている。貿易制限の強化、地政学的緊張、不確実性の高まり、そして限られた財政余地といった問題に対処する政策措置が講じられない限り、低迷する世界経済の成長見通しが大きく改善する可能性は低い。

世界経済の見通しは、5月下旬時点の関税率が予測期間を通じて概ね維持されることを前提としている。そのため、米国とその貿易相手国との間で、すでに発表されていた関税引き上げの一時停止措置が継続するものと想定されている。しかしながら、この基本シナリオにおいても、米国の平均実効関税率は過去ほぼ1世紀で最も高い水準に達する。また、近年の貿易政策の急激な変化や、さらなる関税引き上げに再び転じる可能性を踏まえると、消費者や企業は依然として異例なほど高い不確実性に直面している。このような状況のもと、近年比較的低調であったものの、長期的な発展の重要な原動力である世界貿易と投資の回復の兆しは、阻害されている。

以 上